

リハビリテーション

M-04-13-L

オーガナイザー

リハビリテーション科 幸田 剣

I. 授業の目的

リハビリテーション医学が、「機能を回復する・障害を克服する・活動を育む医学」であることを理解する。リハビリテーション診療を構成する「リハビリテーション診断」と「リハビリテーション治療」の知識を習得する。具体的には、障がい者特有の病態生理、起立、運動負荷を与えた時の生理学的応答、安静臥床の弊害などを学習する。リハビリテーション治療特有の理学・作業・言語聴覚療法、装具療法、多職種とのチーム医療などを理解する。

II. 到達目標

(1) リハビリテーション医学総論

総論 1. リハビリテーション医学・医療の歴史と概念

- リハビリテーション医学の歴史を説明できる。
- 機能を回復する・障害を克服する・活動を育む医学を説明できる。
- 機能障害(impairment)の概念を説明できる。
- 能力障害(disability)の概念を説明できる。
- 社会的不利(handicap)の概念を説明できる。
- 複合障害の概念を説明できる。
- リハビリテーション医療におけるチーム医療を説明できる。
- 急性期、回復期および生活期リハビリテーション医療の意義を説明できる。

総論 2. リハビリテーション診断・治療・理学・作業・言語聴覚療法

- リハビリテーション医療に関する基本的な診断学を説明できる。
- 障害構造モデルを説明できる。
- 活動の能力を最大限に引き出す方法を説明できる。
- 理学療法の基礎を説明できる。
- 作業療法の基礎を説明できる。
- 言語療法の基礎を説明できる。
- 質の高い家庭での活動や社会参加につなげていく重要性を説明できる。

総論 3. リハビリテーション基礎医学 起立、運動、温熱、安静臥床

- リハビリテーション基礎医学として必要な解剖学を説明できる。
- リハビリテーション基礎医学として必要な生理学を説明できる。
- 障がい者特有の病態生理を説明できる。
- 起立、運動負荷を与えた時の生理学的応答を説明できる。
- 温熱を与えた時の生理学的応答を説明できる。

安静臥床の弊害を説明できる。

機能訓練を説明できる。

運動療法を説明できる。

物理療法を説明できる。

総論 4. 義肢装具療法、リハビリテーション工学、社会的資源、スポーツ

義肢装具学を説明できる。

下肢装具の適応・効果を説明できる。

義手を説明できる。

義足を説明できる。

リハビリテーション工学を説明できる。

社会的資源の説明ができる。

実際の地域医療におけるリハビリテーション医学の貢献と医師の役割を説明できる。

スポーツ医学について説明できる。

障害者スポーツの重要性を説明できる。

(2) リハビリテーション医学各論

各論 1 運動器、骨粗鬆症、関節リウマチ、切断

骨関節疾患に随伴する障害（筋力低下、疼痛、可動域制限）について説明できる。

運動器疾患のリハビリテーション治療について説明できる。

運動器疾患の装具療法について説明できる。

変形性関節症のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

脊椎脊髄疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

関節リウマチのリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

四肢切断に関わる評価、診断、治療について説明できる。

各論 2 脳血管障害・頭部外傷・高次脳機能障害

脳疾患のリハビリテーション治療について説明できる。

脳疾患に随伴する障害を示すことができる。

運動麻痺に対する診断、機能障害、能力障害について説明できる。

運動失調に対する診断、機能障害、能力障害について説明できる。

高次脳機能障害に対する診断、機能障害、能力障害について説明できる。

脳血管障害のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

頭部外傷のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

脳性麻痺のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

各論 3 脊髄損傷、神経筋疾患、小児

脊髄損傷の病態生理を示すことができる。

脊髄損傷に随伴する運動麻痺・感覚障害について説明できる。

脊髄損傷に随伴する自律神経障害について説明できる。

脊髄損傷のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

神経筋疾患の病態生理を示すことができる。

神経筋疾患に随伴する障害（麻痺、感覚障害、自律神経障害）について説明できる。

神経筋疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

小児麻痺に随伴する障害とリハビリテーション治療について説明できる。

各論 4 循環器・呼吸器疾患、腎、内分泌代謝疾患

循環生理と運動時の循環調節について説明できる。

循環器疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

循環器疾患に対する運動療法の効果について説明できる。

循環器疾患の運動処方を示すことができる。

呼吸生理と呼吸調節について説明できる。

呼吸器疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

慢性閉塞性肺疾患の運動療法について説明できる。

腎疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

糖尿病のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

糖尿病の運動療法について説明できる。

各論 5 がん、熱傷、嚥下、栄養管理、多職種連携

がんのリハビリテーション医療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

転移性骨腫瘍に対するリハビリテーション治療を説明することができる。

悪液質に対するリハビリテーション治療を説明することができる。

嚥下に関する解剖・生理学を説明することができる。

嚥下障害に対するリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

熱傷のリハビリテーション治療について理解することができる。

運動療法と栄養の関係について理解することができる。

チーム医療の本質を理解し、多職種連携について説明できる。

III. 講義項目と担当者

(1) リハビリテーション医学総論

総論 1. リハビリテーション医学・医療の歴史と概念

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座学長特命教授 久保 俊一

総論 2. リハビリテーション診断・治療・理学・作業・言語聴覚療法

堺平成記念病院リハビリテーション科部長 石田 和也

総論 3. リハビリテーション基礎医学 起立、運動、温熱、安静臥床

獨協医科大学埼玉医療センターリハビリテーション科 主任教授 上條 義一郎

総論 4. 義肢装具療法、リハビリテーション工学、社会的資源、スポーツ

愛知医科大学リハビリテーション科教授 尾川 貴洋

(2) リハビリテーション医学各論

疾患各論 1 運動器、骨粗鬆症、関節リウマチ、切断

講義日程表

リハビリテーション

No.	月日	曜日	時限	項目	担当科	担当
1	R5.8.21	(月)	1	総論1:リハビリテーション医学・医療の歴史と概念	リハビリテーション科	久保
2	R5.8.21	(月)	2	総論2:リハビリテーション診断・治療・理学・作業・言語聴覚療法	リハビリテーション科	石田
3	R5.8.22	(火)	1	総論3:リハビリテーション基礎医学 起立、運動、温熱、安静臥床	リハビリテーション科	上條
4	R5.8.22	(火)	2	総論4:義肢装具療法、リハビリテーション工学、社会的資源、スポーツ	リハビリテーション科	尾川
5	R5.8.23	(水)	1	疾患各論1:運動器、骨粗鬆症、関節リウマチ、切断	リハビリテーション科	峠
6	R5.8.23	(水)	2	疾患各論5:がん、熱傷、嚥下、栄養管理、多職種連携	リハビリテーション科	三上
7	R5.8.24	(木)	1	疾患各論3:脊髄損傷、神経筋疾患、小児	リハビリテーション科	坂野
8	R5.8.24	(木)	2	疾患各論4:循環器・呼吸器疾患、腎、内分泌代謝疾患	リハビリテーション科	西郊
9	R5.8.25	(金)	1	疾患各論2:脳血管障害・頭部外傷・高次脳機能	リハビリテーション科	幸田